

第3・4・5・6学年 体育科学習指導案

指導者 学級担任 乗松 孝丞

- 1 日 時 令和5年10月27日(金) 5校時(13:55~14:40)
- 2 場 所 体育館
- 3 単 元 名 ポートボール・ミニバスケットボール(ボール運動領域 ゴール型ゲーム・ゴール型)
- 4 授業づくりに関する考え方

(1) 子どもの実態と教材の特性

子 ど も の 実 態	<p>本校の体育科の学習は、低学年7名と中・高学年12名に分かれて活動している。体を動かす事が好きな児童がほとんどで、異学年でも楽しく声を掛け合うことができている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新体力テストやソフトバレーボール、泳ぐ運動・水泳等の様子から、該当学年にあった基本的な技能を身に付けられている児童が半数いるが、体の使い方に不器用さが目立つ児童もおり、個人差は大きい。 (知識及び技能) ○ チームで取り組む学習内容では、学年の垣根を越えて話し合い、積極的に意見交換をする姿が見られる。その後の学習活動では、話し合い生かした動きをすることができる。 (思考力、判断力、表現力等) ○ どの児童も基本的な技能の習得に前向きで、自己の課題を明示すると、粘り強く取り組む姿が見られる。意欲的に取り組んだ分、その運動が有する特性や魅力を感じ、休み時間にも体育科で取り上げた教材に取り組む姿が見られる。運動が苦手な児童は、自分の思いを言葉にできず、言われるがままに活動する様子もある。 (学びに向かう力、人間性等) 	教 材 の 特 性	<p>ゴール型ゲーム・ゴール型の学習では、ルールや作戦を工夫して、集団対集団の攻防によって競争することを楽しむ喜びを味わうことができる運動である。バスケットボールは、攻めと守りが入り交じり、手でパスやドリブルをしてボールを運び、シュートによって相手チームと得点を競い合って楽しむ運動である。</p> <p>今回扱う「バスケットボール」は、3年生から6年生という発達段階に差がある中でも、みんなが全力を出し合い、みんなが楽しむことができるようにゲームの場やルールを工夫して行う。ルールが工夫される分、様々な学年の仲間とともに課題解決に向かう話し合いが活発になるであろう。さらに、単元が進む中で、ボールを持っていない時の動きや周りの動きを把握しながら瞬時に適切なプレイを選択することの難しさを感じ、課題解決にむけて、全員が仲間と共に「できるようになる喜び」を感じながらゴール型ゲーム・ゴール型の本質に迫ることができる教材である。</p>
----------------------------	---	-----------------------	--

(2) 単元構想

ア 第3・4学年単元目標

- 易しいゲームで、ボール操作やボールを受けるための動きによって、攻防することができる。
(知識及び技能)
- ルールを工夫したり、簡単な作戦を選んだりするとともに、考えたことを友達に伝えることができるようにする。
(思考力、判断力、表現力等)
- 仲間の考えを認め合いながら、積極的に運動に取り組むことができるようにする。
(学びに向かう力、人間性等)

イ 第5・6学年単元目標

- 簡易化されたゲームで、ボール操作やボールを受けるための動きによって、攻防することができる。
(知識及び技能)
- 全員が楽しむためのルールを工夫することや、自己やチームの特徴に応じた作戦を立てたり、見直したりするとともに、考えたことを仲間に伝えることができるようにする。
(思考力、判断力、表現力等)
- 仲間と協力して互いのよさを認め合いながら、積極的に運動に取り組むことができるようにする。
(学びに向かう力、人間性等)

ウ 本単元で身に付けさせたい力の系統表

学年 観点	低学年 〈ボールゲーム〉	中学年 〈ポートボール〉	高学年 〈ミニバスケットボール〉
知識及び技能	○ ゲームの楽しさに触れ、その行い方を知るとともに、簡単なボール操作と簡単な攻めや守りの動きなどのボールを持たないときの動きによって、攻めと守りが分かれたコートで、簡単な規則で行われる易しいゲームができる。	○ ゴール型ゲームの楽しさや喜びに触れ、その行い方を知るとともに、基本的なボール操作とボールを持たないときの動きによって、コート内で攻守に入り交じってボールをシュートしたり、空いている場所に素早く動いたりする易しいゲームをすることができる。	○ バスケットボールの楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解するとともに、ボール操作とボールを持たないときの動きによって、チームの連携プレイによる簡易化されたゲームをすることができる。
思考力、判断力、表現力等	○ 簡単な規則を工夫したり、攻め方を選んだりするとともに、考えたことを友達に伝えることができる。	○ 規則を工夫したり、ゲームの型に応じた簡単な作戦を選んだりするとともに、考えたことを友達に伝えることができる。	○ ルールを工夫したり、自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだりするとともに、考えたことを他者に伝えることができる。
学びに向かう力、人間性等	○ 進んで取り組み、規則を守り誰とでも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、場や用具の安全に気を付けたりすることができる。	○ 運動に進んで取り組み、規則を守り誰とでも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりすることができる。	○ 積極的に取り組み、ルールを守り助け合って運動をしたり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができる。

エ 本単元を通して育てたい子ども

異学年の仲間とともに課題を解決し、自信をもって次の活動を求めようとする、愛顔あふれる子ども
 異学年の仲間とのつながりを感じながら「できるようになる喜び」を味わわせたい。また、ポートボール・ミニバスケットボールを多様に楽しむことを通して、子どもの心に深く刻まれる学びとしたい。

(3) 単元計画

ア 研究の視点及び手立て

「教材とつながる」	「仲間とつながる」	「自分とつながる」
① 学年による発達段階の差がある中でも、みんなが全力を出し合い、楽しむことができるようにするために、ゲームの場やルールの工夫をする。	② 必要感のある対話ができるようにするために、場の設定やタブレット端末の活用をする。	③ 個別のめあてを立てて学習に臨めるように、ワークシートを工夫する。また、学びの成果を実感し自らの学びに自信を持つことができるように、異学年間での相互評価の場を設ける。

イ 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第3・4学年		
ア ポートボールの楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解する。 イ 仲間からボールを受けることのできる場所に移動することができる。 ウ パスやシュートをすることができる。	ア みんながゴール型の楽しさや喜びに触れることができるよう、ルールを工夫したり、簡単な作戦を選んだりしている。 イ 課題の解決のために考えたことを他者に伝えている。	ア 運動に進んで取り組もうとしている イ ルールを守り誰とでも仲良く運動をしようとしている。 ウ 仲間の考えを認めようとしている。 エ 場や用具の安全に気を付ける。
第5・6学年		
ア ミニバスケットボールの楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解する。 イ 作戦に基づいた位置取りをすることができる。 ウ パスを受けてシュートをすることができる。	ア みんながゴール型の楽しさや喜びに触れることができるよう、ルールを工夫したり、自己やチームの特徴に応じた作戦などを選んだりしている。 イ 課題の解決のために自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	ア 運動に積極的に取り組もうとしている イ ルールを守り助け合って運動をしようとしている。 ウ 仲間の考えや取組を認めようとしている。 エ 場や用具の安全に気を配っている。

ウ 単元における指導と評価の計画

時	学習の流れ	主な評価					
		知		思		態	
		3・4	5・6	3・4	5・6	3・4	5・6
1	<p>バスケットボールがどんな運動か知ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 試しのゲームを通して、自分の課題を見付ける。【視点①】 	ア (様態、ワークシート)	ア (様態、ワークシート)			ア (様態、ワークシート)	ア (様態、ワークシート)
2	<p>ポートボールでは、どのような工夫がされているだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> バスケットボールとの違いに気付く。【視点①】 	ア (様態、ワークシート)	ア (様態、ワークシート)			イ (様態、ワークシート)	イ (様態、ワークシート)
3	<p>全員が楽しむために、どのようなルールにするといいだろう。</p>	イ、ウ (様態、ワークシート)	イ、ウ (様態、ワークシート)		ア (様態、ワークシート)		
4	<ul style="list-style-type: none"> 基本的なボール操作の練習をする。【視点③】 						
5	<ul style="list-style-type: none"> 全員が楽しむために必要なルールについて考え、ゲームで試した結果を基に、ルールの工夫について話し合う。【視点②】 			ア、イ (様態、ワークシート)	ア、イ (様態、ワークシート)		
6							
7	<p>チームにあった作戦を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> チームの構成や長所を生かした作戦を考える。【視点②】 			ア、イ (様態、ワークシート)	ア、イ (様態、ワークシート)		
8	<ul style="list-style-type: none"> 互いのよさや自分の得意なプレイについて考えながら話し合う。【視点③】 						
9	<p>父二峰 B リーグをしよう。</p>					イ、ウ、エ (様態、ワークシート)	イ、ウ、エ (様態、ワークシート)
10	<ul style="list-style-type: none"> 活動してきたことを生かして、リーグ戦を企画し、運営する。【視点③】 						

5 本時の指導（9／10）

(1) 目標

○ 3・4年生

チームのよさを発揮し、互いの考えを認め合いながら活動することができる。

(主体的に学習に取り組む態度)

○ 5・6年生

チームのよさを発揮し、互いの考えや取組を認め合いながら活動することができる。

(主体的に学習に取り組む態度)

(2) 準備物

教師：ボール、作戦板、タブレット端末 子ども：ビブス、タブレット端末、ワークシート

(3) 展開

学習活動	教師の働き掛けと子どもの意識の流れ	<input type="checkbox"/> 指導上の留意点 <input checked="" type="checkbox"/> 苦手な子ども・意欲的でない子どもへの支援・配慮 <input checked="" type="checkbox"/> 評価規準(方法)【観点】
1 ルールやチームの作戦を確認する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">ルールや作戦を確認しよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・今日は、たくさんゴールを決めたいな。 ・あの作戦を試したいな。 	<input type="checkbox"/> 前時の振り返りから本時のめあてを立てることで、活動に意欲的に取り組むことができるようにする。
2 作戦を確認して、ゲームをする。 ・ボールを持たないときの動き ・ポジションの確認	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">父 二 峰 B リ ー グ を し よ う 。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">チームの作戦を確認してゲームをしよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴールの下に走り込む作戦を試そう。 ・ロングパス作戦で試合を進めよう。 ・パス&ラン作戦で、フリーの人を作るようにしましょう。 	<input type="checkbox"/> 今までに作ったルールの確認をする。 <input type="checkbox"/> 自分やチームの特徴に合った作戦を選ぶことができるように声を掛ける。
3 練習してきたことを生かしてゲームをする。 ・競技(する) ・応援(みる) ・審判等(支える)	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">練習したことを生かしてゲームをしよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・練習したことを生かして頑張るよ。 ・ゲームをするときの、審判も大事だね。 ・見ているときは、しっかり応援してあげたら力がでるね。 ・練習したことができたならうれしいな。 ・次のゲームでは、〇〇を試してみたいな。みんなに言ってみよう。 	<input checked="" type="checkbox"/> 運動を多様楽しむことができるように、「する・みる・支える」の役割を分担し、子どもたち自身で試合を運営できるようにする。
4 作戦を見直す。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">ゲームをしてみて、チームの作戦を見直そう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・攻める人数を相手の守りの人数より増やすにはどうしたらいいだろう。 ・早く攻めるために、短いパスを縦につなごう。 ・スペースを作るために、だれかがおとりになるろう。 	<input checked="" type="checkbox"/> 互いの考えや取組を認め合いながら活動することができる。(様態・ワークシート) 【主体的に取り組む態度】
5 話し合いを生かしてゲームをする。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">話し合ったことを生かしてゲームをしよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・考えた作戦がうまくいくと、いつもよりおもしろいな。 	
6 活動を振り返る。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">今日の学習を振り返ろう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のチームに合う作戦を考えられました。 ・友達の考えを取り入れながら、話し合いました。 	<input type="checkbox"/> 自分の活動を振り返る場と発表し合う場を設けることで、自他を認め、次の活動へ意欲をつなげる。

(4) 本時の研究の視点

- 発達の違いによる運動能力の差に関係なく、どの子どもも運動に前向きに取り組み、対話に必要感を感じながらチームの中で自己を発揮することができているか。 【教材とつながる】【仲間とつながる】
- これまでに学習してきたことを自分なりに振り返り、自らの学びに自信をもつことができたか。 【自分とつながる】

(5) 子どもの自己評価

子どもの自己評価として各自が個別にめあてを立てて学習に臨めるようにしている。毎時間積み重ねていくことで、自己評価を蓄積し、個別指導に生かすためである。また、数値が変化した理由を教師自身が考えることによって授業改善にも生かすことができ、子どもの思いや願いをくみ取った授業を目指すことができる。

(6) 基本的なルール

バスケットボールのルールを基に、子どもたちの考えで工夫していく。トラベリングやダブルドリブル等のルールだけではなく、コートやボールの変更、ゴールの数や場所など、みんなが全力で楽しむことができるようにするための場の工夫やルールについて考えさせたい。